



菅波 茂

3月22日から3日間にわたってアラブ首長国連邦のドバイで開催された「コーランとスンナ」の国際科学会議に参加した。初めて訪問したドバイは砂漠の靈気^{レイキ}楼^{ラウ}のような街だった。豊かな緑と花はスプリングラーの水によって保たれている。水の切れ目が縁の切れ目である。膨大なオイルマネーによって支えられている現代の神殿ともいえる。ちなみに、コーランとはイスラム教の創始者であるマホメットが天使ガブリエルを通して得た神の啓示を著した書である。スンナとはマホメットの言動録である。イスラム教の多数派であるスンニ派はこのスンナを啓典のコーランに加えて信仰の教典としている。シーア派は創始者であるマホメットの血統を重視している。したがって、この国際会議はスンニ派の会議ともいえ

た。

宿泊したホテルに会議場があった。会議は3日間ひっきりと続いた。海外からの招待者は日本からの私を含めて20名。聴衆は主としてアラブ世界から集まって来ていた。男性は主としてサウジアラビア風の頭巾に長くて白い服。女性はすっぽりと全身を黒くくめ。エジプトから来た聖職者は赤い帽子。神学校の学生も立派なひげ。議論は白熱。宇宙論から医学まで。コーランとスンナに書かれている記述から科学的な解釈を展開し、演題が討議される。アラビア語の発表に英語の通訳が加わる。演者の自信に満ちた語り口と態度。日本人の私には少々うらやましい。休憩時間はお祈りのため。お祈りが済むと甘いお菓子を飲み物で飲んだ。3度の食事はスパイスの効いた料理。おいしいが、変

「コーランとスンナ」の国際科学会議

化が無いのがつらい。アルコールが無いのは分かっていたが……。生まれて初めてアラブ世界を経験した。さまざまな人達と知り合った。1000年以上の歴史があるエジプトのカイロ大学の総長。この国際会議の発起人の一人でもある。ソ連が侵略する前のウズベキスタンの王様。コーランの意義を長演説してくれた。現在も紛争が続いているバグダッドにある女子大学の学長。どこか寂しげだった。スーダンの医師。彼はラクダの尿が腹水を軽減させることを発表した。サウジアラビアの

人医師。最初から最後まで無口だった。イラン生まれの米国の大学教授。仕切り屋だった。台湾生まれの米国のがん研究所教授。有能の一点。複数の正体不明のロシア人招待者。何となく近付けなかった。会議の終了後にパキスタンに飛んだ。AMDAパキスタン支部長の御子息の結婚式に参加するために。3日間も続いた。首相をはじめとする3000人からの招待客による盛大な式だった。「コーランとスンナ」の国際科学会議に参加した事実はずべてのパキスタンの関係者から祝福された。結婚式に参加したことも意義があった。人間関係の親密度が濃くなると同時に信頼関係が増幅された気がした。

後日、受け取ったパキスタン支部長からの手紙には次のように書かれていた。「家族のような人間関係でお付き合いたい」と。この一言に10年の歳月の重みを感じた。

（アジア医師連絡協議会代表者
＝題字は筆者